

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2110108475		
法人名	医療法人社団 青友会		
事業所名	グループホーム ふるさと「1階」		
所在地	岐阜県岐阜市則武中3-15-17		
自己評価作成日	令和5年8月1日	評価結果市町村受理日	令和5年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルス感染流行にて面会制限があり、以前のようにボランティアの方々の来訪や地域交流がなかなか出来ない中、季節感を味わって頂ける様食事を工夫したり、季節のイベントにも参加してもらっています。高齢の入居者様の負担にならないよう、感染対策をした上で散歩や日光浴等でも、季節を感じていただいています。少しづつですが、地域交流として第2土曜日に入居者様が手作りした、お菓子の無料配布も行っています。医療機関の併設事業所にて、内科主治医・眼科との連携がとりやすいのでご家族様より安心できるとの声も頂いています。毎月ご家族様には生活記録をお送りし変化があれば、随時様子をお知らせし連携を取っています。ご家族様には、LINE登録をしていただき、ビデオ通話でお顔を見ながら会話をいただいています。インスタグラムも開設しており、事業所内での様子を御覧頂けるようになっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgvsvoCd=2110108475-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和5年9月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地にあるホームであるが、周辺には畑もあり、のどかな地域に立地している。コロナ禍であったが、行動制限、人との交流制限等も徐々に回復へと向かっている中において、ホームでも現状でできる地域交流に取り組み始めたところである。行事で作ったお菓子を「地域の人達に食べてもらえないだろうか」という思いで、チラシを作り、近隣に利用者と職員と一緒に配り、近隣の人々に来てもらい、顔を合わせ、お渡しする等の地域の人々との交流の機会を毎月行っている。また、経営者が先頭に立って研修に力を入れ、生き活きたその人らしい生活ができるようにと支援内容について検討し、楽しみ、潤いのある行事を数多く取り入れ、ビデオ通話やインスタグラムで顔の見える情報を届ける等、豊かな生活を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生きる意欲につながる介護を目指し、安心・安全・安楽な生活が出来るよう支援しています。 ゆったりと楽しく、ありのままに残された力を発揮し喜びと自信をもって生活して頂くよう支援しています。	理念にある利用者の「生きる意欲」につながる支援を基本に、ホームでの生活が楽しく、笑顔の出る、その人らしい暮らしとなるよう取り組んでいる。毎月のミーティングや研修等では、支援内容を検討し、研鑽を積み、情報を共有して、チーム一丸となって理念の実現に向かって支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員、藍水会、文化祭、則武小学校との交流がありましたが、コロナ禍にて開催が困難になっています。近隣の家に防災時の協力をお願いをしています。近隣に行ったり散歩に出かけた時、挨拶をしたり花を見せて頂いています。最近では、第2土曜日に地域の方々に利用者手作りのお菓子の無料配布を行っています。	コロナ禍でも地域との交流をと企画した、地域の人々と出会う機会「ふれあいサタデー」では、玄関で地域の方に利用者お手製のお菓子を配布し、持ち帰ってもらっている。また、天気の良い日には、散歩に出かけ、地域の人々と挨拶を交わしたり、声をかけてもらう等、交流する機会も増えてきているとのことである。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、運営推進委員会の開催が困難になっています。書面での対応となりますが、参加予定者の方には意見書を書いていただき、意見を求めています。	運営推進会議は、コロナ禍のため、各委員に向け、月間行事や事故報告、職員異動等を書面で報告し、意見を求め、サービス向上に努めている。なかでも、インスタグラムで利用者の生活の様子を家族に伝えていることが好評で、委員より高い評価があったとの事である。9月から対面で運営推進会議を開始する予定である。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターや、岐阜市の介護保険課に分からない事は積極的に相談するように努めています。包括支援センターのケア会議への出席に努めています。	市の介護保険課と主に連携を取っており、制度や運営についての問い合わせ、外部評価の送付等で関係作りを行い、ホームについて知ってもらえるよう努めている。地域包括支援センターのケア会議にも出席し、センターとの協力関係ができています。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について職員の勉強会を実践。事故の不安があり、玄関などに施錠をしている時もあります。	身体拘束をしないケアに努め、年2回の研修を実施している。利用者に事故防止のため禁止等を伝える場合、抑圧感を与えないように、命令や否定する言葉を使うのではなく、その理由を説明し、どの位待つのか等を伝える等、利用者の気持ちや立場を考え、声かけするようにしている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修会に参加、職員への意識付けを行っています。 入居者様の声に耳を傾け、様子を観察する事に努めています。	ケアについては利用者本位で意向の把握等を重んじ、身体的虐待はもちろん、心理的にも心を傷つけないケアに努めている。利用者に対するストレスが大きい時は、職員同士で話をし、クールダウンの時を持ち、様子を観察して、求められている支援は何かを考え、ケア対応している。	利用者に寄り添い、心を大切にケアに努めている。虐待は職員側の問題であるので予防の観点からもアンガーマネジメントや虐待防止法等にも触れることで、よりケアの質の向上が図られるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の法人内研修に参加し、学ぶ機会を設けています。以前入居者様の中で、日常生活自立支援事業を利用して頂く事を支援しました。また、成年後見制度を利用している入居者様もみえます。今後も必要時、行政と連携をとり、利用をすすめて行きたいです。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書に従い、ゆっくり文書と共に口頭で説明し、不明な点や確かめておきたい事は無いかと確認しています。法令の改正時には文書でお知らせし、不明点があればお聞きすると共に同意の印を頂く様にしています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決相談の案内(ポスターの提示)しています。ご意見箱の設置をしています。アンケートの実施をしています。意見・意向等に対し話し合い実現に向けて検討しています。	毎年、家族アンケートを実施して、要望や意見を聞いている。出された意見はミーティングで検討し、可能なものは取り入れ、現状で困難なことは、代替え案を提案したり、困難である理由を家族へフィードバックする等して、意見の反映に努めている。電話等で意見をいただくこともあり、家族と良好な関係を築いている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回理事を交えたミーティングを行ってサービスの質の向上をはかっています。出勤時、申し送り事項を確認しています。月1回、ミーティングを開催し、提案、決定事項を皆に周知し実行しています。	管理者は日常的にケアの現場にも入り、職員との関係づくりを行っている。話しやすい関係との事で、家庭の事情等も含めて相談できる間柄となっている。毎月のミーティングでは、経営者も出席し、意見や提案、要望等も協議して、運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	資格取得の進めと協力をしています。研修等に参加できるよう勤務表を作成しています。理事ミーティング時、改善の要望を伝え、改善出来る様に努力しています。	管理者は、日頃から職員の勤務状況や家庭状況を把握し、職員がワークライフバランスを保ちながらやりがいを持って働けるよう、関係づくりを行っている。管理者は職員の病気や人間関係、困りごと等相談に乗るとともに、必要時には、法人人事部につなぎ、中間的立場から対応している。よりよい処遇、働きやすい職場づくりをと、経営者も取り組んでいる姿勢が伺えた。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修(新人・現任)勉強会に参加、理事長よりマンネリ化しないよう、常に新しい知識を取り入れるよう、本を購入したりして学ぶよう指示あり、それをできるだけ実行できるように努力しています。	法人は資格取得に積極的で、取得に向けた支援があり、勤務時間の調整等、協力体制がある。また、取得後は職場内で活かせる環境づくりを行っている。経営者は職員の質の確保・向上において積極的で、自ら指導者となって教育にあたり、参考文献の購入等、職員育成を具体的に計画し、進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO岐阜県グループホーム協議会の会合に参加していましたが、コロナ禍の為困難になっています。SNSで情報を得たり、他の事業所の人と意見交換を行っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の際に話しかけながら食事をしていただいています。食器洗いや洗濯物をたたんだりすると共に行事に参加し、歌ったり身体を動かしています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様、御家族様の要望、意向を聞いて得た情報を職員間で共有し、ご本人の思いに添えるよう努めています。	日々のかかわりの中で、言葉や表情等から意向や思いを推測したり、それとなく真意を確認するようにして把握に努めている。意思疎通の困難な利用者には、家族や関係者から得られた情報から推測する等して、職員間で話し合っ対応している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは担当者が行い、ケア会議は計画作成者が中心となって介護計画を作成しています。	利用者の自立を高め、いきいきとした生活となるよう日々のかかわりのなかで思いや意見を聞き、家族の意向等も確認しながら、介護計画を立てている。計画もモニタリングもミーティングで話し合い、主治医の意見も確認して作成している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画、生活支援実施書はいつでも見れるようにしています。生活記録、看護・介護記録と共にデータ管理し、情報の共有、漏れがないようにしています。	利用者一人ひとりについて個別のファイルがあり、利用者の状況等に関する情報を記録し、保管している。支援の実施状況、それに伴う変化、アセスメント、介護計画等の記録を共有し、見直しへとつないでいる。情報はいつでも閲覧可能であり、把握できるようになっている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設医院への受診支援。 隣接の小規模多機能との交流があります。美容院の方に来て頂いています。	本人や家族のニーズに応じ、美容院が来訪し、散髪ができる支援をしている。隣接の小規模多機能からの利用者もあり、ニーズに応じ、日頃から交流を図ることができる配慮をしている。利用者の誕生会を本人の誕生日にできるよう柔軟に調整する等、利用者個々を大事にし、満足を高めるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校との交流、民生委員さんの訪問、運営推進委員会のメンバーから地域の情報を得て参加支援をしていましたが、コロナ禍の為、困難になっています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の受診の協力、状態を報告するなど主治医との連携、定期健診支援、他科への受診が必要な時は、ご本人と御家族様の意向を確認し、スムーズに受診出来る様に支援しています。	利用時に、ほとんどの利用者が法人内の主治医を希望しているとの事である。法人内の医療機関受診時は、看護師が同行し、受診がスムーズに行えるよう支援している。また、定期的な訪問診療もあり、医師は利用者の健康状態を把握し、情報のやり取りを通して職員との関係も築いている。他科受診時は、家族が同行するので、医療機関と連携を取り、紹介状の用意や介護タクシーの調整等の支援をしている。	家族による医療機関受診時には、職員は主に電話等、口頭で、家族にホームでの様子や体調を伝えている。家族が受診の際、より医療機関に適切な情報が伝えられる方法(受診時情報提供用紙作成等)を工夫されることを期待したい。
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時サマリーの交換、病院の相談員と馴染みの関係となっており、不明な点など相談員を通して情報を得ています。	入退院時に、安心して治療に専念し、退院できるよう、医療機関と情報をやり取りするための情報提供用紙を作成している。また、医療機関の連携室等を中心に相談・連携を図り、関係づくりに努めている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期の対応について説明し同意書を受理しています。重度化した場合には、主治医、ご家族様と共に話し合い、方針を共有して支援しています。	利用時に、本人・家族に対して重度化した場合や終末期の在り方について事業所が対応しうるケアについて説明し、文書にて同意を得ている。重度化した場合は、家族に主治医より説明があり、本人・家族等の意向を確認し、対応方針を共有して、家族や関係機関等と連携を図りながら支援するよう努めている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故報告書を文書で残し、事故防止について話し合っています。 研修にてAED使用方法・緊急時の対応時の実習 救急・急変時のマニュアルがあります。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を(夏・冬)を実施しています。小規模多機能ふるさととの合同訓練、同一法人からの支援・近隣に協力依頼をしています。	避難訓練を同法人の小規模多機能と合同で年2回行っており、災害時には同法人からの支援が得られる体制となっている。毎年、近隣住民に災害時の協力等についてプリントを渡して説明し、協力依頼をしている。災害に備えた備品等や緊急時の薬の対応についても考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し、ご本人の尊厳を損なわないように対応に努めています。 法人内の研修を毎年受けています。	人生の先輩として本人の気持ちを大切にケアを心がけている。勤務年数の長い職員が多く、利用者との関係ができており、その方に合わせた対応や声かけをしている。法人内の研修(プライバシーや法令順守等)を受け、個別性や守秘義務を十分理解できるよう努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度化し自分の思いや希望を表現できない方がいたら、業務・職員本位とならないように答えやすい質問をしたり、表情から読み取るなどご本人の思いを大切にしています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示が困難な方が多く、大まかな日課に沿い、体調・表情を読み取りながら支援しています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化し出来ない方がいるが、味見をして頂いたり、対面での調理を行い、音、匂い等で調理の気分を味わって頂いています。 楽しく食べて頂くよう会話も大切にしています。	おかずは外部から取り寄せ、職員が本人に合わせた食形態にしているが、ご飯とお味噌汁はホーム内で調理し、音、匂い等の調理の気分を味わっていただく等、家庭的で食事を楽しめるよう配慮している。日頃の関わりの中で、好きな食べ物を把握しながら、行事食を取り入れたり、日曜及び第1木曜日はホーム内で昼食づくりをしている。また、片付け等ができる利用者には、一緒にを行い、能力を発揮していただいている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録で食事の摂取量や必要時に水分量を記録、栄養をバランスよく摂取できるようにしています。状態に合わせ、刻み・粥とろみ食の提供、摂取量が少ない時は補食を提供、水分補給をこまめに行っています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る力を見極めながら、朝食前・昼食後・夕食後、入居者様の口腔ケアの援助を行っています。義歯の消毒は職員管理で行っています。	利用者の残存能力や身体の状態に応じて、1日3回、食前または食後に利用者の方に声かけをする等して、口腔ケアの援助をしている。利用者によっては、洗口液を利用してもらっている方もいる。また、近くの歯科医院に往診してもらう等、歯科受診等の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の能力や訴えに応じて全介助、一部介助や声掛けを行っています。一部、尿・便意がなく、定期的にトイレ介助、自立に向けた支援を行っています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の好みの湯加減にする等し、ゆっくり、くつろいで入浴して頂けるように心がけています。安心して入浴して頂けるようリフトバス、シャワーチェアの使用、職員2人介助が必要な方が多いです。H26年3月に浴室の修理実施。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々にあった就寝時間や寝具で落ち着いて眠っていただけるように援助しています。車いすの方は身体的負担を考え午睡を取っていただくようにしています。(本人の意思に従っています。)		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的に看護師が薬を管理しているが、介護職員も薬の内容を確認したり、新しく薬が処方された時は、副作用について説明を受け、意識を高めるようにしています。服薬チェック表や職員同士で名前の確認、夜間は記録により誤薬防止に努めています。	利用者ごとに処方薬の内容をまとめ、特に新しい薬の処方があった時には、申し送り簿に記入し、各職員は副作用について確認し、本人の症状変化に気づけるようにしている。また、服薬チェック表を作成している。看護師が薬を管理・セッティングし、服薬の際は、服薬チェック表や職員同士で確認し、誤薬防止に努めている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティアの歌や踊りを楽しまれていましたが、コロナ禍の為に困難になっています。併設の小規模多機能とのイベントは合同で行い、また地域交流を目的にしています。男女問わず、食事作りや食器洗いなどの家事を行って頂いています。	食事作りや食器洗い等、得意分野の家事を行っていただき、利用者が経験や知識を発揮する場を作っている。コロナ禍よりボランティアによる歌や踊りなどを楽しむイベントの受入れは減ったが、同法人の小規模多機能との「ふれあいサタデー」のイベントを企画開催し、法人敷地内で、地域の方に手作りパウンドケーキを準備したり、交流を楽しむ機会を持っている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	頻回とはいかないが散歩に出たり、本人希望にて日向ぼっこをして頂いています。現在の職員数では難しい中、職員とともに買い物に行かれています。入居者様も見えます。入居者様の心身機能も低下してきており、車いすでしか外出できない入居者様が増えてきています。	近くの美容院等に行きたい利用者には、職員が同行したり、また、介護タクシーを手配して外出する等の外出支援を行っている。ゴミ出しを利用者と一緒に行うことで、外出の機会となったり、近隣の方との交流の機会となっている。近隣の桜等の開花時には、花見に出かけたり、車いすの方はテラスに出てもらう等、戸外に出て季節を楽しんでいただく等の工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重度化し、金銭管理に対する要求が少なく可能な限り買い物代行の援助をしているが、殆どご家族様にお願いしています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部入居者様は、定期的にビデオ通話やご家族様とはがきのやり取りをしています。重度化に伴い、自ら手紙を書くという要求はないが、書くことができない方には気持ちを代弁し、年賀状を代筆して投稿しています。電話は希望があればかけるようにしているが、ご家族様の要望にも配慮しています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせた飾りつけや、プランターに野菜や花を育てています。ソファやこたつを設けゆったりと過ごしていただけるように配慮しています。	共用空間のリビングには、利用者作成の季節の作品が飾られていたり、廊下に面した各居室前の扉、あるいは壁には、自宅の表札やポストの写真が貼られており、自分が住んでいる家だという意識を高めてもらう工夫をしている。また、リビングとつながった広い中庭があり、プランターで野菜や花を育てる等して、季節を楽しみながら、気軽に室外に出れるようになっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、リビング、居室には本人の作品や、記念の写真を飾り、安心できる環境づくりに配慮しています。食堂からリビングまで好みに応じ自由に利用できるようにしています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、生活用品の持ち込み、居室内配置や壁の提示は自由にしていただいています。トイレ付きの居室、冷蔵庫、洗面所の配置があります。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂に手すりの設置、ベランダ、廊下の窓には転落防止バーの取り付けを行っています。便座や洗面所の高さの調整、必要時には足台の使用、居室にトイレ利用できるような置く方もみえます。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2110108475		
法人名	医療法人社団 青友会		
事業所名	グループホーム ふるさと「2階」		
所在地	岐阜県岐阜市則武中3-15-17		
自己評価作成日	令和5年8月1日	評価結果市町村受理日	令和5年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルス感染流行にて面会制限があり、以前のようにボランティアの方々の来訪や地域交流がなかなか出来ない中、季節感を味わって頂ける様食事を工夫したり、季節のイベントにも参加してもらっています。高齢の入居者様の負担にならないよう、感染対策をした上で散歩や日光浴等でも、季節を感じていただいています。少しづつですが、地域交流として第2土曜日に入居者様が手作りした、お菓子の無料配布も行っています。医療機関の併設事業所にて、内科主治医・眼科との連携がとりやすいので、ご家族様より安心できるとの声も頂いています。毎月ご家族様には生活記録をお送りし変化があれば、随時様子をお知らせし連携を取っています。ご家族様には、LINE登録をしていただき、ビデオ通話でお顔を見ながら会話をさせていただいています。インスタグラムも開設しており、事業所内での様子を御覧頂けるようになっていきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgvsvoCd=2110108475-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和5年9月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生きる意欲につながる介護を目指し、安心・安全・安楽な生活が出来るよう支援しています。 ゆったりと楽しく、ありのままに残された力を発揮し喜びと自信をもって生活して頂くよう支援しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員、藍水会、文化祭、則武小学校との交流がありましたが、コロナ禍にて開催が困難になっています。近隣の家に防災時の協力をお願いをしています。近隣に行ったり散歩に出かけた時、挨拶をしたり花を見せて頂いています。最近では、第2土曜日に地域の方々に利用者手作りのお菓子の無料配布を行っています。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、運営推進委員会の開催が困難になっています。書面での対応となっておりますが、参加予定者の方には意見書を書いていただき、意見を求めています。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターや、岐阜市の介護保険課に分からない事は積極的に相談するように努めています。包括支援センターのケア会議への出席に努めています。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について職員の勉強会を実践。事故の不安があり、玄関などに施錠をしている時もあります。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修会に参加、職員への意識付けを行っています。 入居者様の声に耳を傾け、様子を観察する事に務めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の法人内研修に参加し、学ぶ機会を設けています。以前入居者様の中で、日常生活自立支援事業を利用して頂く事を支援しました。 また、成年後見制度を利用している入居者様もみえます。今後も必要時、行政と連携をとり、利用をすすめて行きたいです。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書に従い、ゆっくり文書と共に口頭で説明し、不明な点や確かめておきたい事は無いかと確認しています。法令の改正時には文書でお知らせし、不明点があればお聞きすると共に同意の印を頂く様にしています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決相談の案内(ポスターの提示)しています。ご意見箱の設置をしています。アンケートの実施をしています。意見・意向等に対し話し合い実現に向けて検討しています。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回理事を交えたミーティングを行ってサービスの質の向上をはかっています。出勤時、申し送り事項を確認しています。月1回、ミーティングを開催し、提案、決定事項を皆に周知し実行しています。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	資格取得の進めと協力をしています。研修等に参加できるよう勤務表を作成しています。理事ミーティング時、改善の要望を伝え、改善出来る様に努力しています。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修(新人・現任)勉強会に参加、理事長よりマンネリ化しないよう、常に新しい知識を取り入れるよう、本を購入したりして学ぶよう指示あり、それをできるだけ実行できるように努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO岐阜県グループホーム協議会の会合に参加していましたが、コロナ禍の為困難になっています。SNSで情報を得たり、他の事業所の人と意見交換を行っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の際に話しかけながら食事をいただいています。食器洗いや洗濯物をたたんだりすると共に行事に参加し、歌ったり身体を動かしています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様、御家族様の要望、意向を聞いて得た情報を職員間で共有し、ご本人の思いに添えるよう努めています。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは担当者が行い、ケア会議は計画作成者が中心となって介護計画を作成しています。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画、生活支援実施書はいつでも見れるようにしています。生活記録、看護・介護記録と共にデータ管理し、情報の共有、漏れがないようにしています。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設医院への受診支援。 隣接の小規模多機能との交流があります。美容院の方に来て頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校との交流、民生委員さんの訪問、運営推進委員会のメンバーから地域の情報を得て参加支援をしていましたが、コロナ禍の為、困難になっています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の受診の協力、状態を報告するなど主治医との連携、定期健診支援、他科への受診が必要な時は、ご本人と御家族様の意向を確認し、スムーズに受診出来る様に支援しています。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時サマリーの交換、病院の相談員と馴染みの関係となっており、不明な点など相談員を通して情報を得ています。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期の対応について説明し同意書を受理しています。重度化した場合には、主治医、ご家族様と共に話し合い、方針を共有して支援しています。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故報告書を文書で残し、事故防止について話し合っています。 研修にてAED使用方法・緊急時の対応時の実習 救急・急変時のマニュアルがあります。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を(夏・冬)を実施しています。小規模多機能ふるさととの合同訓練、同一法人からの支援・近隣に協力依頼をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し、ご本人の尊厳を損なわないように対応に努めています。 法人内の研修を毎年受けています。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度化し自分の思いや希望を表現できない方がいたら、業務・職員本位とならないように答えやすい質問をしたり、表情から読み取るなどご本人の思いを大切にしています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示が困難な方が多く、大まかな日課に沿って、体調・表情を読み取りながら支援しています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化し出来ない方がいるが、味見をして頂いたり、対面での調理を行い、音、匂い等で調理の気分を味わって頂いています。 楽しく食べて頂くよう会話も大切にしています。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録で食事の摂取量や必要時に水分量を記録、栄養をバランスよく摂取できるようにしています。状態に合わせ、刻み・粥とろみ食の提供、摂取量が少ない時は補食を提供、水分補給をこまめに行っています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る力を見極めながら、朝食前・昼食後・夕食後、入居者様の口腔ケアの援助を行っています。義歯の消毒は職員管理で行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の能力や訴えに応じて全介助、一部介助や声掛けを行っています。一部、尿・便意がなく、定期的にトイレ介助、自立に向けた支援を行っています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の好みの湯加減にする等し、ゆっくり、くつろいで入浴して頂けるように心がけています。安心して入浴して頂けるようリフトバス、シャワーチェアの使用、職員2人介助が必要な方が多いです。H26年3月に浴室の修理実施。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々にあった就寝時間や寝具で落ち着いて眠っていただけるように援助しています。車いすの方は身体的負担を考え午睡を取っていただくようにしています。(本人の意思に従っています。)		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的に看護師が薬を管理しているが、介護職員も薬の内容を確認したり、新しく薬が処方された時は、副作用について説明を受け、意識を高めるようにしています。服薬チェック表や職員同士で名前の確認、夜間は記録により誤薬防止に努めています。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティアの歌や踊りを楽しまれていましたが、コロナ禍の為困難になっています。併設の小規模多機能とのイベントは合同で行い、また地域交流を目的にしています。男女問わず、食事作りや食器洗いなどの家事を行って頂いています。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	頻回とはいかないが散歩に出たり、本人希望にて日向ぼっこをして頂いています。現在の職員数では難しい中、職員とともに買い物に行かれています。入居者様も見えます。入居者様の心身機能も低下してきており、車いすでしか外出できない入居者様が増えてきています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重度化し、金銭管理に対する要求が少なく可能な限り買い物代行の援助をしているが、殆どご家族様にお願いしています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部入居者様は、定期的にビデオ通話やご家族様とはがきのやり取りをしています。重度化に伴い、自ら手紙を書くという要求はないが、書くことができない方には気持ちを代弁し、年賀状を代筆して投稿しています。電話は希望があればかけるようにしているが、ご家族様の要望にも配慮しています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせた飾りつけや、プランターに野菜や花を育てています。ソファやこたつを設けゆったりと過ごしていただけるように配慮しています。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、リビング、居室には本人の作品や、記念の写真を飾り、安心できる環境づくりに配慮しています。食堂からリビングまで好みに応じ自由に利用できるようにしています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、生活用品の持ち込み、居室内配置や壁の提示は自由にしていただいています。トイレ付きの居室、冷蔵庫、洗面所の配置があります。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂に手すりの設置、ベランダ、廊下の窓には転落防止バーの取り付けを行っています。便座や洗面所の高さの調整、必要時には足台の使用、居室にトイレ利用できるような置く方もみえます。		